

## 大草谷津田生きものの里 自然観察会

### 落ち葉で遊ぼう

戸村真理子（八街市）

日 時：2021年11月21日（日）10:30～12:00 天候：曇り

参加者：8名（大人4名 子ども4名）

担当指導員：晝間 金子 戸村

心配していた雨も降らず、時折晴れ間も見せる穏やかな観察会となった。落ち葉を入れる袋を一人一人に配り、この袋いっぱいには落ち葉を集めて下の谷津田で遊ぶことを伝えて出発。下見の時よりも色づいてきた小道を行くと、直ぐに、芽を出しているドングリや、ヤブランやカラスウリの実を見つけて歓声上がる。白い花を咲かせているヤツデの傍で、お父さんが葉を拾うと、「天狗さんのうちわ」とお母さん。それから「この方が大きいよ」と、子どもたちがさらに大きなヤツデの葉を拾っていった。大きなケヤキの下では、普通の葉よりも小さい葉をつけた小枝を拾って観察。「実を飛ばすために小さいんだよ」と、飛ばしてみたら、ちょうど上から小さな葉と実をつけた小枝が落ちてきてビックリ。さらに、クヌギやコナラやカキ、ハリギリ、カエデなど袋がいっぱいになるほど集めた。つやつやしたアカガシの葉は、縁にギザギザが無い葉の感触や厚さや光沢を確かめたりした。

最初の落ち葉遊びは、「落ち葉ならべ」。田んぼ中央の畦道に、用意した1メートル程の紙を広げ、家族ごとに葉を並べていった。大きなヤツデ、赤や黄色のカエデを束ねたもの、クヌギやアカガシなど、何度も置き換えては「面白い」と女の子。形も大きさも色もいろいろあることがわかった様子だ。次は「落ち葉のステンドグラス」。指導員が用意した、クリアファイルの中に窓あきの黒画用紙が入った物を各自に配り、思い思いのアートを作っていた。作品をロープに吊るして鑑賞し合っていると、日に透けた落ち葉の色がひととき鮮やかになり、皆さん大喜び。さらに、集めた落ち葉で小山を作って座ったり寝転んだりした後、ブルーシートに集めて飛ばし、落葉を谷津田に返した。

最後に、絵本『おちばのしたをのぞいてみたら・・・』を読んだ。落ち葉の下には、良く知っているダンゴムシやミミズの他にも小さな生き物たちがたくさんいて、それらが命をつないでいることに興味を持った様子だ。落葉を集めたり遊んだりして時間が足りなくなるほどの楽しいひと時だった。



落ち葉や木の実をいっぱい拾って



みんなで自由な発想で並べます



透かして見るととってもキレイ！